

福岡県におけるワンヘルスの取組

ワンヘルスとは



人と動物の健康と環境の健全性は一つとして
一体的に守っていこう という考え方

福岡宣言(2016年)



“One Health”的概念を検証し認識
↓
“One Health”的実践
(医師と獣医師が協力して取り組む4項目)

ワンヘルス関連条例と行動計画

〈福岡県ワンヘルス推進基本条例〉(令和3年1月公布)

ワンヘルスの理念に基づく行動又は活動を推進し、ワンヘルスの理念の実践に関する課題に取り組むための基本理念、基本方針及びその基盤となる措置等に関し必要な事項を定めたもの

〈ワンヘルスの実践促進に関する条例〉(令和4年10月公布)

「ワンヘルス」の取組の実効性を確保するため、県や市町村、事業者、県民が担うべき責務などを定めたもの

〈福岡県ワンヘルス推進行動計画〉(令和4年3月策定)

基本条例の6つの基本方針を具体化する県の施策又は取組を体系的に整理

ワンヘルス実践の基本方針(6つの課題への取組)

人獣共通感染症対策

医療、獣医療をはじめ各分野と連携し、
発生予防、まん延防止を図る

薬剤耐性菌対策

薬剤の適正使用を推進する

環境保護

自然環境の保全を図る

人と動物の共生社会づくり

動物愛護の推進と野生動物の理解と共存を図る

健康づくり

自然や動物とのふれあいを通じた健康づくり

環境と人と動物のより良い関係づくり

健全な環境下における安全な農林水産物の生産・消費、食育を推進する

福岡県におけるワンヘルスの取組

ワンヘルスセンター



人の健康や環境保全に関する調査・研究を行なう「保健環境研究所」を移転・建設
+
家畜、愛玩動物、野生動物などの保健衛生を一元的に担う「動物保健衛生所」を新設

国際フォーラム



世界トップクラスの研究者がワンヘルス・アプローチによる研究成果などを世界に向けて発信する「ワンヘルス国際フォーラム」を開催

ワンヘルスの森



森林セラピーや野生動物との棲み分けなどワンヘルスの重要性を実感できる場として「ワンヘルスの森」として整備、「ワンヘルスの森ミュージアム」を設置

ワンヘルス教育



県内全ての小学校4年生、中学校1年生、高校1年生及び教職員に配布し、全県立高校において、ワンヘルス教育推進教員を中心として、ワンヘルス教育を実施

ワンヘルスフェスタ



ワンヘルスを県民の皆様により身近に感じ、理解してもらうことを目的に2020年度から開催

ワンヘルス認証制度



生態系の保全や、安全・安心な食の提供、環境負荷の低減などの取組を、2つ以上を実践して生産される農林水産物等を認証

人獣共通感染症発生状況調査

① 愛玩動物を対象とした病原体保有状況調査(2023~2024年度)

1)レプトスピラ症
検体:犬の血清
検査:IgG抗体検査

2)重症熱性血小板減少症候群(SFTS)
検体:犬の血清
検査:PCR、IgM抗体検査、IgG抗体検査

② 野生動物が保有する抗体調査(2022年度~)

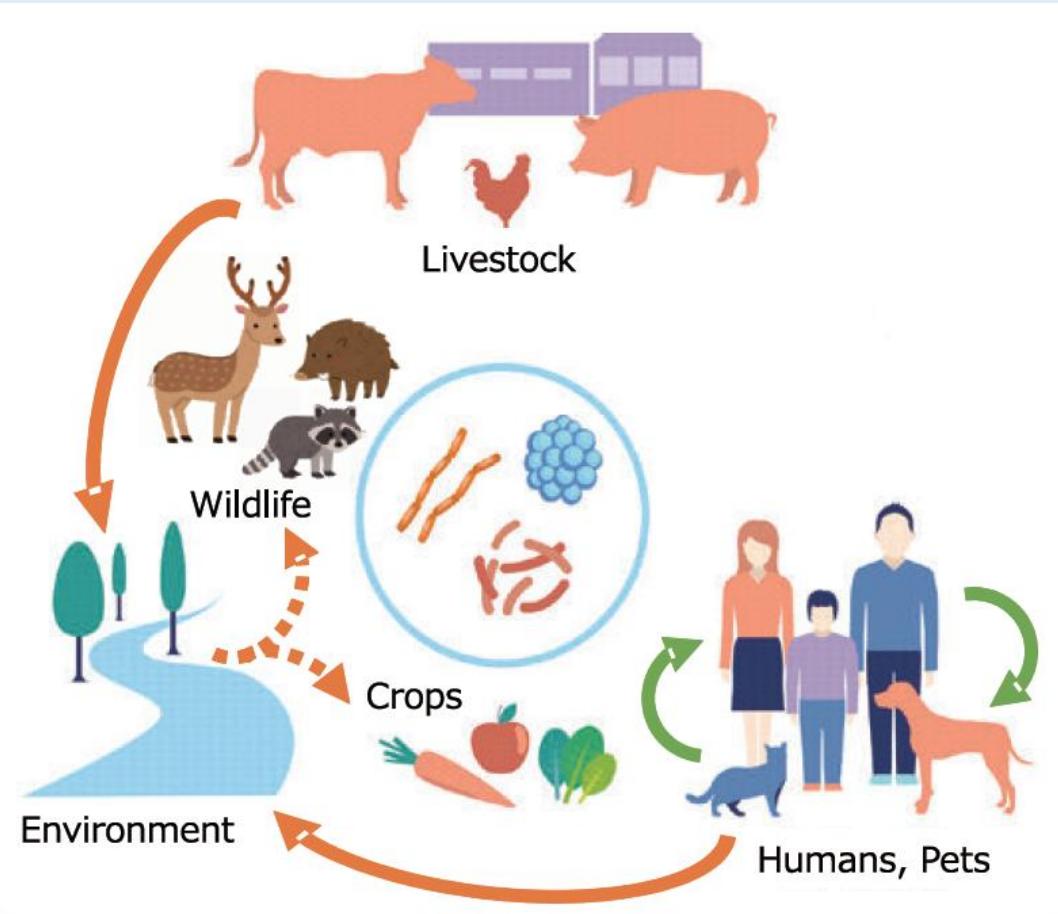
1)重症熱性血小板減少症候群(SFTS)
検体:ニホンジカ・イノシシ血清
(2022~2023年度)
アライグマ血清(2024年度~)
検査:IgG抗体検査

※陽性の場合は、中和検査を行い最終判断

福岡県におけるワンヘルスの取組

薬剤耐性菌発生状況調査

愛玩動物における薬剤耐性サーベイランスと河川水中の薬剤耐性菌および抗菌剤のサーベイランスを実施



① 愛玩動物の薬剤耐性菌

対象: 福岡県内の動物病院に来院した健康な愛玩動物(犬猫)

期間: 2022~2024年度

検査: 腸内細菌目細菌の分離と同定

抗菌薬の薬剤感受性試験、遺伝子解析(NGS)

② 河川水中の薬剤耐性菌と抗菌剤

対象: 福岡県内の河川

期間: 2022年度~2024年度

検査: 抗菌剤(14項目)の定量測定

腸内細菌目細菌の分離・同定

抗菌剤の薬剤感受性試験、遺伝子解析(NGS)



今年度、結果を評価するため、専門家会議を設置